

い事時間が0の場合は、母数に含まれていない。つまり、当該活動をした者はどのくらいの時間を費やしているかという表示である。これは、活動の書き落とし等による数字の歪みを少なくするためにも必要な方法であったことを断っておきたい。

この表にみられるように、全学年平均睡眠時間は9時間22分であり予想より長かった。ただこの数字は就寝時間と起床時間から計算したものであるもので、子どもたちが眠っている時間と同じではなく、床についている時間と考えられる。ただ、土曜日が平日より1時間弱睡眠時間が長くなっていることや学年が上がるにつれて睡眠時間が短くなっていることがわかる。学校滞在時間も学年別の相違は余り大きくなかったが、学校以外の学習時間は5年生と6年生でおよそ3-4時間になっている。1月中旬旬という時期は中学受験の季節であるせいか、睡眠、食事と身のまわりの時間（入浴、洗面、トイレなど）以外は土曜日の大半の時間を学習時間にあてている6年生もあった。放課後児童クラブでの時間は、水曜日3時間47分、木・金曜日2時間29分そして土曜日7時間52分であった。お稽古・習い事時間と遊び時間がほぼ同じで2時間ほどであり、他方テレビ・ビデオ視聴時間が1時間40分となっている。5-6年生の遊び時間が他の学年より長くなっているが、これは学校以外の学習をしている子どもと遊んでいる子どもの行動の二極化の影響があるのだろう（特に、6年生の遊び時間の行動者率は16%である）。

表2は生活時間帯を示したものである。全学年平均の起床時刻は午前7時12分となっている。曜日による差も大きく、平日に比べると土曜日の起床時刻は1時間近く遅い。朝食の開始時刻は7時30分、夕食の開始時刻は18時46分、就寝時刻は21時50分となっている。生活時間帯についての学年差は少なく、1年生の就寝が少し早く5-6年生の就寝時刻が少し遅いことを除けば、子どもたちはほぼ同じような時刻に起床、朝食、夕食をしていることがわかる。

表3では放課後児童クラブの利用平均時間と利用者率をみることができる。被調査校では低学年の子どもだけが放課後児童クラブを利用していた。1年生は水曜日に3時間47分、木・金曜日に3時間1分、土曜日に8時間47分の利用時間である。2年生は水曜日3時間42分、木・金曜日2時間7分、土曜日6時間46分利用している。3年生は水曜日3時間56分、木・金曜日2時間7分、土曜日8時間35分の利用時間となっている。学校が休みの土曜日は最も長く、次が水曜日そして一番短いのは木・金曜日である。ただ、土曜日の利用者率はおおよそ8~12%程度であり、保護者が土曜日に休日でない場合にのみ利用していると思われる。

表1 代表的な活動平均時間

(時間:分)

	睡眠時間	学校 滞在時間	学校以外の 学習時間	お稽古・ 習い事 時間	放課後 児童クラブ 利用時間	遊び時間	テレビ・ ビデオ 視聴時間
全学年平均	9:22	6:03	2:18	2:06	4:43	2:08	1:40
水曜日	9:09	5:22	1:57	1:49	3:47	1:40	1:20
木・金曜日	9:05	6:45	2:04	1:52	2:29	1:28	1:10
土曜日	9:52	-	2:52	2:36	7:52	3:15	2:31
平日(木・金曜日)							
1年生	9:39	6:20	1:24	1:10	3:01	1:18	1:11
2年生	9:25	6:29	1:14	1:54	2:07	1:08	1:11
3年生	9:21	7:01	1:18	1:19	2:07	1:07	1:05
4年生	9:04	6:58	1:51	2:30	-	1:12	1:06
5年生	8:41	6:44	2:47	2:00	-	2:26	1:06
6年生	8:08	7:01	4:13	1:25	-	3:35	1:14

注)睡眠時間と学校滞在時間以外は、その活動項目に関して行動している人の活動時間の平均値を示す。

表2 生活時間帯

(時間:分)

	起床時刻	朝食 開始時刻	夕食 開始時刻	就寝時刻
全学年平均	7:12	7:30	18:46	21:50
水曜日	6:55	7:10	18:52	21:46
木・金曜日	6:57	7:11	18:52	21:51
土曜日	7:46	8:09	18:35	21:53
平日(木・金曜日)				
1年生	6:56	7:10	18:25	21:17
2年生	7:03	7:17	18:44	21:38
3年生	6:55	7:09	18:44	21:33
4年生	6:51	7:09	19:04	21:47
5年生	7:04	7:06	18:34	22:23
6年生	6:52	7:11	19:13	22:44

注)その活動項目に関して行動している人の活動時刻の平均値を示す。

表3 放課後児童クラブ利用者の利用平均時間と利用者率

	水曜日		木・金曜日		土曜日	
	利用者 平均時間	利用者率	利用者 平均時間	利用者率	利用者 平均時間	利用者率
	時間:分	%	時間:分	%	時間:分	%
1年-3年平均	3:47	26.7	2:29	30.7	7:52	9.5
学年別						
1年生	3:47	36.0	3:01	36.0	8:47	8.3
2年生	3:42	21.2	2:07	27.3	6:46	9.1
3年生	3:56	23.5	2:07	29.4	8:35	11.8
4年生	-	0.0	-	0.0	-	0.0
5年生	-	0.0	-	0.0	-	0.0
6年生	-	0.0	-	0.0	-	0.0

2) 調査研究②の結果は、次の通りである。

㊦ 保護者調査

保護者を対象としたアンケートは、配布数 1147(クラブ数 26)、回収数 352、回収率 30.7%であった。回答した保護者の子どもの学年は、1年生の保護者がもっとも多く、41.7%、次いで2年生 33.3%、3年生 23.3%であった。なお、4年生以上の子どもは、障害などにより学年延長して在籍している児童である。(表4) また、保護者には、通っている放課後児童クラブの満足度を「1 満足している」「2 やや満足」「3 少し不満」「4 不満である」の4段階評価で尋ねた。満足と答えた割合(1+2)は 91.9%であった。(表5)

「放課後児童クラブに子どもを通わせて良かったこと」については、339名からの回答が得られた。これらを内容ごとに分類すると、以下の10の項目に分けることができた。回答例は、別表1に示した。

- a. 「子どもが充実した生活ができ、親が安心して仕事に行ける／子どもを預けられる」(169件)
- b. 「子ども自身が進んで通っている」(21件)
- c. 「信頼できる指導員がいる」(64件)
- d. 「遊びや文化活動の内容が充実している」(84件)
- e. 「季節行事や親子行事等、家庭では経験できないことを体験できる」(29件)
- f. 「友だちが増えた／子ども同士の関係が豊かになった」(187件)
- g. 「宿題や自立に向けての生活の支援がある」(35件)
- h. 「個別に援助が必要な子どもへの配慮がある」(7件)
- i. 「保護者同士の交流や関係をつくることのできる」(18件)
- j. その他(7件)

保護者から見た「放課後児童クラブ通わせてよかったこと」は、言い換えれば、「保護者が放課後児童クラブに望んでいること」であるとも言える。そのように考えると、a.「子どもが充実した生活ができ、親が安心して仕事に行ける／子どもを預けられる」は、放課後児童クラブとして望まれる総体的ニーズを表していると考えられる。また、b.～i.については、放課後児童クラブに望まれる具体的なニーズを示していると言える。

これらを、「子どもにとって望まれる支援」に照らすと、b.は項目1、c.は項目2、d.とe.は項目4、f.は項目5、g.は項目7や8、h.は項目9に対応しており、このことから、各項目の必要性を保護者が支持していると判断された。

支援案の内容の妥当性についての回答結果は、表6の通りである。また、内容・表現の修正を求める「2」を選択して記述された具体的な修正意見の記述数は、項目1 29件、項目2 43件、項目3 27件、項目4 31件、項目5 26件、項目6 10件、項目7 23件、項目8 19件、項目9 25件あった。

表4 子どもの学年

	1年生	2年生	3年生	4年生以上	NA	計
人数	150	120	84	5	1	360*
割合	41.7%	33.3%	23.3%	1.4%	0.3%	100.0%

\*きょうだいでの上の在籍もあるため、回答者数よりも多い

表5 放課後児童クラブに対する満足度

	1	2	3	4	NA	計
人数	226	98	18	5	5	352
割合	64.2%	27.8%	5.1%	1.4%	1.4%	100.0%

表6 支援案の内容の妥当性(保護者)

	案1	案2	案3	案4	案5	案6	案7	案8	案9
1	317	308	323	322	325	337	329	331	326
	88.6%	86.6%	90.6%	90.1%	90.9%	94.3%	92.0%	92.6%	91.2%
2	26	40	24	25	23	9	21	15	18
	7.4%	10.8%	6.5%	7.1%	6.5%	2.6%	6.0%	4.3%	5.1%
3	4	0	0	0	1	2	0	1	1
	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%
NA	5	4	5	5	3	4	2	5	7
	1.4%	1.1%	1.4%	1.4%	0.9%	1.1%	0.6%	1.4%	2.0%
計	352	352	352	352	352	352	352	352	352
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## ① 指導員調査

指導員を対象としたアンケートは、配布数 86（クラブ数 26）、回収数 37、回収率 43.0%であった。

「放課後児童クラブの仕事をしていて良かったこと」については、38 件の記述があった。その主な内容（要旨）は次の通りである。

- ・ 子どもたちの笑顔や、生き生きした顔を見た時。
- ・ 子どもたちの「楽しかった～」の声と笑顔がみられること。毎日同じではなく、子どもたちの成長していく姿を見ながら、自分も成長していけること。
- ・ 児童クラブが大好きだという言葉が子どもの口から、または保護者の方から聞いた時。
- ・ 児童が自分を必要としてくれるのを感じた時。
- ・ 働く親の子育てに少しでも援助ができていく実感。
- ・ 子どもの成長を身近に感じられ、保護者とその成長を共有できることがとてもうれしく、子どもにかかわれる仕事ができることに日々喜びを感じる。
- ・ 子どもの成長の喜びを保護者と共有しあった時。
- ・ 三年間を通じて子どもたちの成長をみることができる。
- ・ 子どもの成長をじっくり見てあげられること。
- ・ 友達の中に入れなかったり、その子の持っている特長によって、協力関係を作ることが難しかったりすることが、成長とともに少しずつ改善していく様子が見えていく時。
- ・ 卒室した子どもたちの元気な様子を確認できた時。
- ・ 卒室した子が成人し、再会した時「あの時学校が嫌だったけど児童クラブに行って先生に会えるのが楽しみで、なんとか乗り切れた、ありがとう」と言われた時。
- ・ 子育て支援の一助を担っていると実感できること。

支援案の内容の妥当性についての回答結果は表 7 の通りである。また、内容・表現の修正を求める「2」を選択して記述された具体的な修正意見の記述数は、項目 1 1 件、項目 2 4 件、項目 3 3 件、項目 4 3 件、項目 5 3 件、項目 6 1 件、項目 7 2 件、項目 8 1 件、項目 9 1 件あった。

表 7 支援案の内容の妥当性（指導員）

	案 1	案 2	案 3	案 4	案 5	案 6	案 7	案 8	案 9
1	36	33	35	36	33	35	35	35	34
	97.3%	89.2%	94.6%	97.3%	89.2%	94.6%	94.6%	94.6%	91.9%
2	1	4	2	1	4	2	0	2	3
	2.7%	10.8%	5.4%	2.7%	10.8%	5.4%	0.0%	5.4%	8.1%
3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%
計	37	37	37	37	37	37	37	37	37
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## D. 考察

### 1) 調査研究①

放課後児童クラブの質的向上のためには、子どもたちの生活全体の流れの中で、何が必要とされているのかを明らかにしなければならないと思われる。そこで今回は、子どもたちの24時間がどのような時間で構成されているかを調査した。調査対象の子どもたちは予想より睡眠時間は長かったが、全体として生活活動が短時間で区切られた忙しい生活を送っている。余暇時間の多くが、習い事・お稽古の時間、学校以外の学習時間及びテレビ・ビデオ視聴時間で占められ、家族・友人との会話や共同行動のための時間は少ない状況である。被対象校の子どもたちは低学年だけが放課後児童クラブを利用している。特に1年生の利用率は36%と高いが、2-3年生の利用率は20%と低くなっている。1年生の時に利用していても、2年生になると辞める子どもたちの放課後の時間の過ごし方についても検討をしていきたい。

### 2) 調査研究②

「放課後児童クラブに通う子どもにとって望まれる支援」の指標を作成するためには、放課後児童クラブ自体が子どもにとってどのようなところかを明確にする必要がある。このことについて、この調査では放課後児童クラブを「放課後の時間に親が働いているという共通の条件によって人為的に集められてはいるが、子どもたちはそこで限定された特定の活動だけをするのではなく、遊び・生活の場として一定時間を過ごすので、子どもにとっては、家族や地域における遊び仲間の関係と同じような社会的集団である」という位置づけをした。したがって放課後児童クラブでは、「子どもの生活全体を安定的に維持する中で、『子ども一人ひとり』と『子どもの集団全体』の生活内容を豊かにする」ことが大切になると考えた。このことは、調査への協力依頼文書の中で被調査者にも説明した。

回答結果は、提示した(案)について、「1この内容でよい」が、保護者・指導員合わせて86.6~97.3%となっており、各項目について全般的な支持が得られた。このことから項目自体の変更は行う必要がないと判断したが、内容・表現の修正を求める回答の意見(0.0~10.8%)を参考にして、項目内の記述については修正をおこない、「放課後児童クラブに通う子どもにとって望まれる支援」として作成した。(別表2)

## E. 結論

### 1) 調査研究①

昨年度のヒアリングで浮かび上がった放課後の時間への期待としては、「子どもが自分で考えて行動できる時間」「基礎体力を蓄え、日常生活のルールを覚え、集中力を蓄える時間」「生活の基本を整える時間」などがある。今年度の「子どもの生活時間調査」結果をみると子どもたちの生活は起床、朝食、登校、学校での時間、下校、夕食、就寝の流れはほぼ同じであるが、下校から就寝の間の時間の使い方には大きな相違がある。学校以外の学習やお稽古事に多くの時間を使っている子どもと、平日も土曜日も余暇時間は遊びだけという子どもに分かれる傾向もみられた。小学生にとって、意味的には学校の時間は生活の中

心を占めるとはいえ、平日の学校滞在時間は6時間である。これに睡眠時間を加えると残りは8時間となる。食事、入浴、身支度の時間を差し引いても6時間余という自由裁量の時間の過ごし方が子どもたちに与える影響の大きさが推察できる。かつて家庭や地域で蓄積されてきた年齢に応じた子どもの生活時間に戻れば良いということではないが、今日のように小規模化し多忙化した個別家庭にまかせすぎることの問題が大きくなっているのではないだろうか。放課後児童クラブの支援のあり方を検討するためには、放課後児童クラブを利用していない子どもも含めた子どもの生活時間の現状と課題をさらに多面的に検討する必要があるだろう。次年度は調査研究②との緊密な連携を図りながら、子どもの生活時間という観点から放課後児童クラブの質的向上に資する研究を推進していく予定である。

## 2) 調査研究②

今回の保護者調査と指導員調査から、放課後児童クラブに通う子どもにとって望まれる支援の内容を充実させることが、保護者にとっても指導員にとっても求められていることが明らかになった。その意味で、今年度作成した「放課後児童クラブに通う子どもにとって望まれる支援」は、今後の放課後児童クラブの質的整備を進めていく上で有効な指針になるものと期待する。次年度は、この支援項目をもとに実際の事例を収集・整理するとともに、調査研究①と緊密な連携を図りながら、4年生以上の子どもの放課後児童クラブの受け入れに関する条件整備の課題を、子どもの生活時間の実態を把握してそのあり方を考えるという観点とあわせて研究をしていく予定である。

**別表1 保護者アンケート「放課後児童クラブ(以下、児童クラブ)に通わせてよかったこと」(427件)**

**a. 「子どもが充実した生活ができ、親が安心して仕事に行ける／子どもを預けられる」(169件)**

- ・ 毎日、放課後に安心して過ごせる場所があるのがなによりです。大変感謝しています。
- ・ 保護者が帰宅するまでの間、放課後、1人で自宅にいるのではなく、児童クラブに行けることで、安全面で安心できるため。
- ・ 放課後安心して仕事ができる(1人で家で過ごさせるのは心配)。夏休み、冬休み、春休み等長期休暇の時に安心できる(長期間1人で過ごさせるのは不可能)。
- ・ 両親が帰宅するまで、子どもたちが安全な居場所で安心して過ごす事ができる場所があるというのは、親の就労にとってもメンタリティにとっても非常に大きな助けになる。
- ・ その日の気分と体調に合わせて、友達と又は1人で充実した放課後を過ごせていること。災害時に引率して下さる方がいる安心感を考えた時に、児童クラブにお世話になれて良かったと思います。
- ・ 災害があった場合、両親が行くまで保護してもらえる。
- ・ 自営の為、子供が仕事場にいと、火傷やケガをしてしまう事が多く、親も仕事に集中できるので、大変ありがたいと思います。
- ・ 共働きの為、又ひとりっ子なので、もし児童クラブがなければ学校が終わって親が帰宅する夕方過ぎまでの時間どうしていたかと考えると本当に助かってます。
- ・ 誰もいない家でなく「ただいま」と言って帰ってこられる事。体調が悪い時に連絡をいただいた事。震災の時、いっしょに帰りを待っていていただいた事。数えきれないほど良かった事があります。
- ・ 子どもを1人で不安な気持ちにさせずにすむこと。
- ・ 「ひとりで留守番」や「ひとりで〇〇へ行く」がまだできない子なので、毎日帰って過ごす場所があるのはとてもありがたいです。
- ・ 子どもは1年生の時、児童クラブに空きがなく待機(1年間)していました。私は、小学校の生活に慣れていない子どもに留守をあずけ不安、近所に遊ぶ場所が少なく車も多いので、仕事をしていてもずっと子どもの事が心配でした。2年生になり、入室することができ、安心して仕事に集中できるようになりました。

**b. 「子ども自身が進んで通っている」(21件)**

- ・ 「児童クラブが大好き!」と楽しそうに通えていること。
- ・ 指導員との信頼関係により、自ら行きたい、と思える「場所」となっていること。
- ・ とても雰囲気の良い児童クラブなので、放課後子供が家に帰る様に喜んで通っている。安心して過ごす事が出来る場所であり有難く思っている。
- ・ 毎日喜んで通っています。四季折々のイベントを考えてくれたり、工作を指導して下さったり…ただ空間に居るだけではなく細やかな配慮をいただいていると感じます。
- ・ 指導員の先生方が本当によくして下さいるので、子供が喜んで児童クラブへ行くようになり、「〇〇をしてあそぶ」、「〇〇(工作)を完成させる」と目的をもって通うようになっていること。
- ・ 何より子どもが児童クラブで友だちと遊ぶことをとても楽しみにしていること。
- ・ 毎日、とても児童クラブに行く事を楽しみにできていて、それによって学校生活も快適なものになっている。
- ・ 子どもが自然に通えている。
- ・ 子供が放課後児童クラブでの出来事をのびのびと楽しそうに話している時。



- ・ 仕事が早く終わり、早めにお迎えに行った時、いつも通り、18時に帰りたいと言った時。

c. 「信頼できる指導員がいる」(64件)

- ・ とてもあたたかく迎えて下さること。とてもきめこまかいケアをして下さること。子供たちが遊ぶところに大人がいるので、いい感じで争いもうまくおさまり遊び育つこと。
- ・ 家族でやるべきことと家庭でやるべき事いろいろありますが、児童クラブに喜んで通い、時間もフルに使い、いろいろな面で成長を助けてもらっています。
- ・ 指導員の先生が子供の個性に合わせて丁寧にかかわって下さり、子供に信頼できる大人が増えた。
- ・ 先生方の事が大好きで、他者に信頼を寄せる経験が充分出来ている事は幸せな事と思っています。
- ・ 先生方が温かい目で見えてくれて、子どもが安心していろいろな事にチャレンジできている。
- ・ あんまり活動的な子ではないのですが、指導員の先生方が声をかけてくださり、外遊びやボール遊びに自分から参加するようになり、動くようになりました。お友達とトラブルがあっても、児童クラブでじっくり話し合いをさせていただけるので、本人たちもひきずることなく、親もひきずることなくいられました。
- ・ “れんらくちょう”で1日の様子を知らせてもらえる(とてもいねいに連絡してもらえる)。
- ・ 先生方の子どもへのまなざしが温かく、保ゴ者とは違った側面から子どもの姿をとらえてくれる。
- ・ 子どものことで心配なことがあった時、児童クラブの先生方にすぐ相談できたこと。
- ・ 行動を見守り、適宜指導してくれる大人が複数近くに居る事。

d. 「遊びや文化活動の内容が充実している」(84件)

- ・ 放課後、安全に遊べる環境が整っている。
- ・ 屋上や公園があり、十分に外遊びができること。
- ・ 放課後から夕方まで、思いっきり遊ばせてもらえて、子供が喜んでいきます。
- ・ 外あそびをたくさんするようになった。
- ・ 保育園から小学校と、急激な環境の変化の中、児童クラブでは保育園の時のように充分遊べるのでとても精神衛生上良いと思っています。
- ・ 家にいるとマンガばかり読んだり、ビデオを見たりという事がほとんどなので、季節によって手作りのものを作ったり、運動したりといろいろな遊びをするようになるので、よかった。
- ・ こま、まりつき、すもう、創作など家庭では思いつかないような、かつできないような伝承遊びをたくさん教えてもらえる。
- ・ デジタル機器のない放課後を過ごし、楽しい遊びを自分の力で作り出せるようになったこと。
- ・ 何事にもチャレンジする前向きな気持ちが身についたと思う。先生をはじめ、上級生の励ましでどんどんやる気になり一輪車や鉄棒が上達した。
- ・ 家ではやらないような遊びを覚えてくること。学年差、男女差で遊びは変わるので、児童クラブで幅広い興味を持つことができる。

e. 「季節行事や親子行事等、家庭では経験できないことを体験できる」(29件)

- ・ 様々なイベントがあり、とても楽しんで登室しています。お正月休みには早く児童クラブに行きたいと言っていました。
- ・ 季節によって様々な行事をして下さり子供もとても楽しんで通わせていただいているところ。

- ・ 児童クラブがいろいろと行事を大小企画してくれ、親だけではなかなか体験させてやれないことなどもできたことがありがたかった。
- ・ 我が家だけではなかなか行けない所に行けたり、やれないことができたりしていること。
- ・ 我が家では児童クラブに子どもを通わせたのは初めての経験でしたが、本当に素晴らしい時を過ごさせていただいたと思っています。休みの日のキャンプやイベントは親にとっても貴重得がたい経験になりました。感謝の気持ちとより多くのお子さんにもこうした機会が与えられることを願ってやみません。
- ・ 一年を通して、保護者も参加出来る行事があり、たこあげ、もちつき、キャンプ、バザーなど個人ではできない体験ができる。
- ・ 親子参加の行事があり親子共々楽しめる。
- ・ 児童館内に児童クラブがあるため、児童館のイベント（まりつきやこま回しなど）に参加でき、家では教えられないようなことを教えてもらえる。

f. 「友だちが増えた／子ども同士の関係が豊かになった」（187件）

- ・ 沢山の友達ができて、家にいるよりも思いきり遊ぶことができた。その中で人間関係などを子供なりに学んでいるところ。
- ・ 児童クラブに通っていなければ、放課後に遊ぶ友達を探すのに苦労したのではないかと思うが、その点の心配がなくてよい。
- ・ 地域を軸にしたたてのつながりができ、本人が楽しんで生活をして、いつも遊ぶ友達がいること。
- ・ 子どもに、いつでも遊び相手がいること。お友だちと、率直に、自然に関わる力がついたこと。
- ・ 学校が終ってから親のいない時間を一人ではなく同じ位の年の子達と共同生活ができた事は、子供にとって精神的にも不安が無くなる点と兄弟がいない一人っ子なので、学校とは違った友達関係を作る事ができた点が良いと思います。
- ・ 1人っ子という事もあり、児童クラブのお友達とまるで兄弟のように遊んでいる姿を見た時に、入室させていただいた事を感謝した。
- ・ 普段好まなかったおやつを皆と一緒に食べ、美味しいと言っていたので、家では食べるところまでもっていくのに一苦労なのに、友達の力はすごいな、と思いました。
- ・ 性格が積極的でなく、社交的でもなく、言葉も少ないので、同年代の学校あるいはクラスが同じである子どもがいる集団に属することで、社会性の涵養になっていると思います。
- ・ 近所の子供さんとは別の学校に通っているが、児童クラブで一緒に過ごすことで、帰宅後の時間を共に過ごすお友達ができた。お休みの時等も離れた学校のお友達よりも、近所のお友達と遊べるのが楽しいようです。
- ・ 父母が働いていて、保育園に通っていた為、近所の子供とはあまりつき合いがなく、上級生に遊びをおそわる等児童ならではの交流がなく心配していましたが、児童クラブで上級生に習い、又それを下級生に伝えるということができ、ありがたいと思いました。
- ・ お友達は同じクラス同じ学年だけでなく、たてのつながりも持てるところがよいと思います。ドッジボール、三歩あて・・・など人数がいるために楽しめるし、こういう遊びの中でお友達通しのやりとりを学べます。体力もつきました。遊びを通じて多くのことが学べるのが何よりです。

g. 「宿題や自立に向けての生活の支援がある」（35件）

- ・ 規則正しい生活のリズムがあり、沢山のお友達と宿題をしたり、遊んだりでき、児童館の沢山の行事に積極的に参加できたり、児童クラブの毎月の行事もあり、子供もとても大好きなので良かった。
- ・ 毎日通うことでしっかりした生活リズムが保てること。友達と遊び、先生の話聞いて、一緒に工作したり、おやつを食べたり。
- ・ 規則正しい生活をおくることが出来、勉強の後は、思う存分走りまわったり、体を動かすことができるというところがよかったです。
- ・ 長い休みにも規則正しく生活することができること。
- ・ きちんと、きまりのある中での生活は安心して仕事に行くことが出来、子どもだけで過ごさせるよりもけじめをつけて過ごせる。
- ・ おやつの時間、学習の時間をとって下さっているので、18時まで児童クラブにいても安心。（ただ、遊んでいるだけではない、という意味で）
- ・ 通常の宿題や夏休みの宿題を児童クラブで頑張って終えてきた時。
- ・ 入学するタイミングで転居したので、友達のことや地域のことなど不安要素が多かったが、児童クラブでの友人関係や指導員の先生方と安定した関係ができ、新一年生のスタートがスムーズだった。

#### h. 「個別に援助が必要な子どもへの配慮がある」(7件)

- ・ コミュニケーションが苦手な子どもなのですが、お友達とのやりとりを先生方が助けてくれています。最近では、先生の助けなしでもずいぶんお友達と仲良く遊べるようになりました。まだ1人で家にも置いておけないので、夏休みなど仕事に安心して行く事ができます。
- ・ 子供は特別支援級に在籍しています。通常級の子供達と交流する場が少ないので、児童クラブでそういった子供達と関わりがもてることは、子供の発達にとってもとても良いと思います。
- ・ よかったと思うのは、健常児との生活の中でいろいろと知恵をつけて生活に役立て、成長がみられる事と、家庭の事情で仕事もしていることです。助かります。

#### i. 「保護者同士の交流や関係をつくることができる」(18件)

- ・ 小学校とは違う場所、視点で子どもの児童クラブに関わり、子どもと共に親としても様々な交流を持つことができた。
- ・ 子ども同士を預け、預かり合い、一緒に夕食を食べ…という中で働く親同士の仲間、友だちづき合いができ、とても支えられている。ママ友ができる良い機会を作っていただいている。
- ・ 小学校は保育園と違い、親同士の交流が少ない（送迎がないので会う機会が少ない）ですが、児童クラブのおかげで、他学年の保護者とも交流ができ、非常に良いです。
- ・ 親同士も、同じような環境の親と知り合う機会ができ、悩みを共有しやすい。
- ・ 保護者にとっても、共働きという共通の条件を踏まえた幅広い付き合いができた。
- ・ 普段ほとんど顔を合わすことのない父母の間でも保護者会、行事等を通じて、指導員、父母間で交流ができ私達も心強いつながりを持つことができました。

別表2 「放課後児童クラブに通う子どもにとって望まれる支援」

項 目		
大 項 目	小 項 目	
1	子どもが、児童クラブに通い続けられるように適切な支援があること。	1) 子どもが児童クラブに通うことの必要性について保護者から説明を受けて理解している。
		2) 子どもが児童クラブで充実した生活をおくれるように、児童クラブと家庭との連携がある。
		3) 子どもが児童クラブに通い続けられるように、保護者と指導員が協力して支援している。
		4) 子どもが児童クラブに通うことについて、児童クラブと学校との連携がある。
2	子どもが信頼できる大人(指導員)がいて、安心できる関係がつけられていること。	1) 専任の指導員が複数いて、子どもが児童クラブで充実した生活、遊びができるように支援している。
		2) 子どもが安心して信頼を寄せることができるように、指導員は倫理規範を身につけ、子ども理解に努めている。
3	子どもが児童クラブで安全に過ごすことができるような環境整備と支援があること。	1) 子どもがハザード(自分で避けることのできない危険)に遭遇しないように、安全点検と環境整備の対処方針があり、機能している。
		2) 子どもが危険や事故などに遭遇した時に、被害を最小限にするための対処方針があり、指導員がそのスキル(技法)を身につけている。
		3) 災害などの緊急時に子どもの安全が守られるよう支援がある。
4	子どもの発達に即した遊びと活動ができるように、環境の整備と支援があること。	1) 子どもの発達に即した遊びや仲間関係をつくることができるように、施設空間、遊具、道具、素材が整備されている。
		2) 子どもが外遊び、制作(工作)、伝承遊びや地域の文化にふれる体験ができるなど、放課後の生活を豊かにする支援がある。
		3) 子どもの自主性を尊重しながら、仲間との関係を発展させ、社会性を身につけることができるような支援がある。
		4) 子どもが地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会がある。
5	子どもがともに過ごしている子どもたちと友だちの関係をつくれるような人数規模が守られ、適切な支援があること。	1) 子どもが指導員と信頼関係を結べ、なおかつ子ども自身がお互いを生活をするうえでのメンバーとして友だち関係をつくれる範囲の人数規模(おおむね40人程度まで)が守られている。
		2) 子どもが、友だちの関係をつくり発展させることができるよう、指導員が適切な支援や橋渡しをしている。
6	子どもが児童クラブを自分たちの遊び、生活の場として実感できるようにになっていること。	1) 子どもが児童クラブで過ごす際の秩序が簡潔に示されていて、その必要性が子どもにわかるように説明されている。
		2) 子どもが集団の中での生活習慣を身につけ、自立した生活ができるよう支援されている。
7	子どもが放課後を過ごすために必要とされる、休息やおやつ提供、健康への配慮への支援があること。	1) 子どもが静養や休息・気分転換を必要とするときに休めるスペースと環境がある。
		2) 子どもにおやつが提供されている。また、おやつを楽しく落ち着いて食べることができ、安全・衛生の配慮がされている。
		3) 子どもの健康状態を指導員が把握しており、必要に応じて支援ができるようになっている。
		4) 子どもが自分で健康・衛生の自己管理ができるようになるための適切な支援がある。
8	子どもがさまざまな活動に見通しを持ち、自ら進んで取り組めるように支援されていること。	1) 児童クラブ全体に共通する生活時間の区切りが子どもに示され、その区切りを柔軟に活用しながら、子ども自身が見通しを持って過ごせるよう工夫されている。
		2) 子どもが放課後の時間を自己管理できるよう、子どもの発達に即した支援がなされている。
		3) 子どもが自由に遊びや活動できる時間があり、創意工夫して取り組むことについての支援がある。
		4) 子どもが宿題・自習等を自主的に行える環境と支援がある。
9	子どもが児童クラブで過ごす際に個別に援助を必要としている場合には、その援助が適切に受けられること。	1) 児童クラブに在籍するすべての子どもがお互いを理解し協力してすごせるように、子ども・保護者・指導員の協力がある。
		2) 子どもが家庭の事情などで生活面の困難に遭遇したり、子どもに対する虐待などの問題が疑われた場合には、関連する機関と連携して対応し、児童クラブが担う役割を適切に果たせるようになっている。
		3) 子どもにある障害への理解と支援の技法が指導員間で共有されており、実際の支援について、専門機関(者)等の相談が受けられる体制がある。
		4) 障害のある子どもが児童クラブで過ごす際に、個別に継続した援助が必要とされる場合には、指導員を加配して援助が行われている。

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

---

平成 23 年度

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

仕事と子育ての両立を支援するサービスの連続性と整合性並びに

質の評価に関する基礎的研究（H22-次世代-一般-009）

総括・分担報告書

2012 年 3 月発行

藤 林 慶 子

（東洋大学社会学部社会福祉学科）

〒112-8606

東京都文京区白山 5-28-20

TEL&FAX:03-3945-7713

E-mail: kfuji@toyo.jp

---

